



2011/ 8 / 10開催・資産運用セミナー

キャッシュフローを生む力としての資産価値

～時価(キャッシュフローの現在価値)からキャッシュフローそのものへ～

## アンケート結果

HCアセットマネジメント株式会社



# 「セミナーテーマに関するアンケート」結果報告

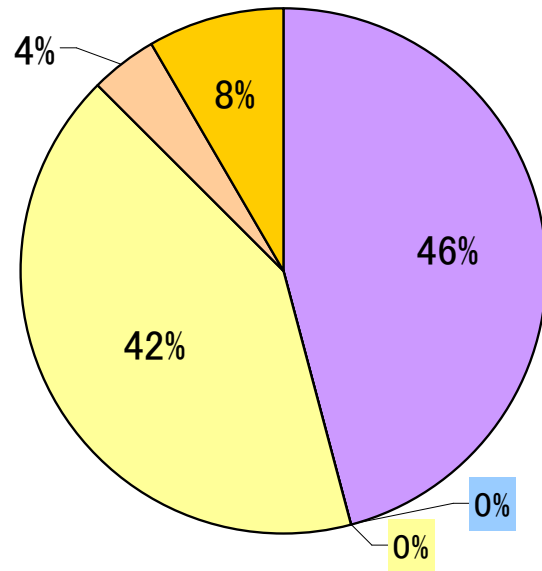
キャッシュフローを生む力としての資産価値という視点に立った時の  
資産評価 / 債券、株式、不動産の運用  
についてアンケートを実施。

- ・セミナー参加者人数 計37名
- ・アンケート回答者人数 計24名

**回答率 : 64%**

※小数点第一位以下切捨

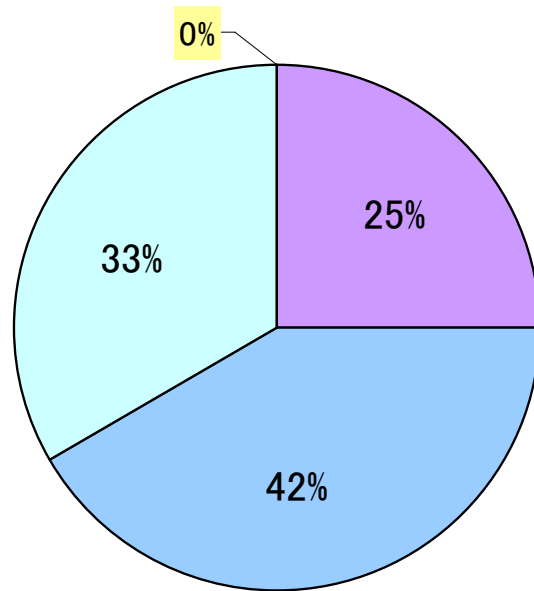
# アンケートにご協力頂いた方の業種別割合



	人数
①	11
②	0
③	0
④	10
⑤	1
⑥	2
合計	24

- ①年金基金もしくは母体企業の資産運用管理者
- ②金融機関の自己資産運用担当者
- ③大学財団など、その他法人の資産運用担当者
- ④投資運用業者(信託銀行を含む)
- ⑤コンサルタント
- ⑥その他

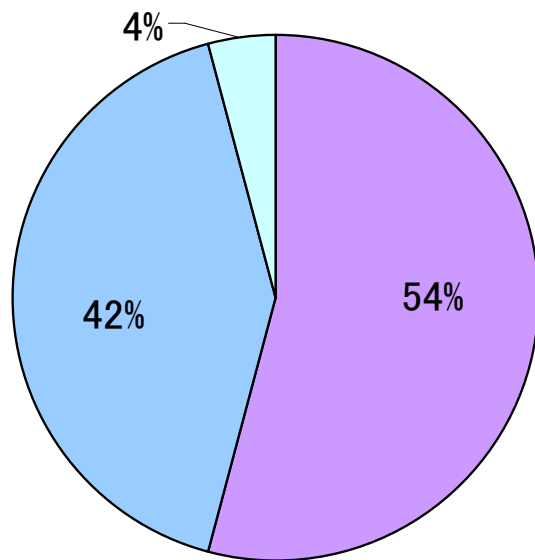
Q1 「キャッシュフローを生む力としての資産価値」という視点にたったとき、会計的な目的において、資産評価に用いる指標として、どれが適切でしょうか。一番近いと思われるものを、一つだけお選びください。



	人数
①	6
②	10
③	8
④	0
合計	24

- ① 市場価格(いわゆる「時価」)
- ② 推計キャッシュフローの現在価値として計算される理論価値
- ③ 推計キャッシュフローに重要な変化がない限り、取得価格(簿価)を用い、キャッシュフローの減少が見込まれる限りにおいてのみ、適宜、減損処理すればよい
- ④ その他

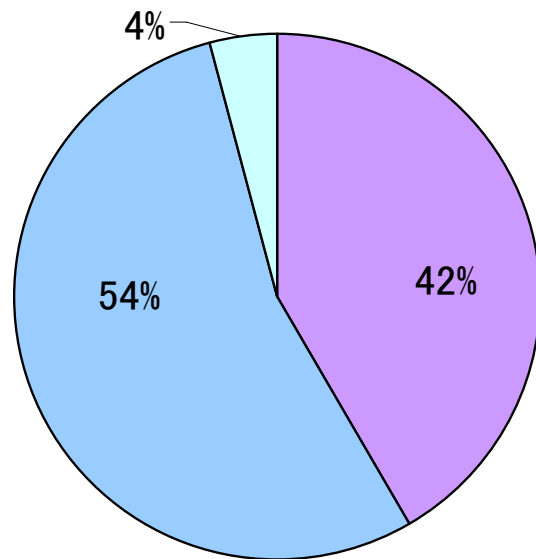
Q2 債券の運用について、どのようにお考えでしょうか。どちらかといえば、より近いほうを選択ください。



	人数
①	13
②	10
無回答	1
合計	24

- ① 金利収入を得ることが目的なので、適宜、入替えを行うにしても、原則としては、満期まで保有する前提で銘柄選択を行う
- ② 価格変動を見込んだトータル・リターンで考えるべきなので、原則としては、途中売却の可能性が高いことを前提に銘柄選択を行う

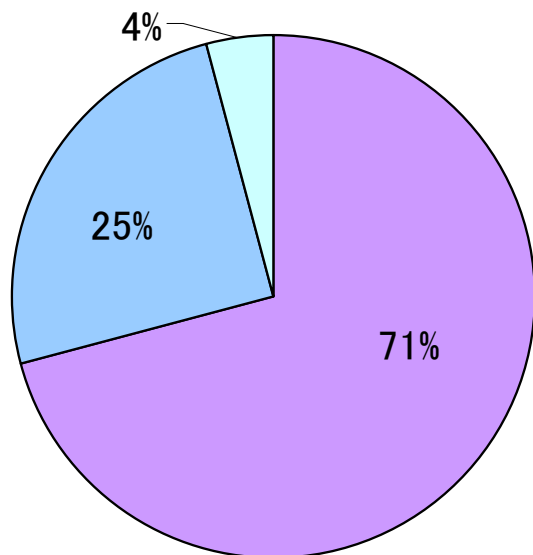
Q3 株式の運用について、どのようにお考えでしょうか。どちらかといえば、より近いほうを選択ください。



	人数
①	10
②	13
無回答	1
合計	24

- ① 株式の理論価格は配当流列の現在価値なので、将来の配当余力を基準に銘柄選択を行う
- ② 企業価値の本質は、内部留保の将来へ向けた投資能力にあるので、成長戦略を基準に銘柄選択を行う

Q4 不動産の運用について、どのようにお考えでしょうか。どちらかといえば、より近いほうを選択ください。



	人数
①	17
②	6
無回答	1
合計	24

- ① 不動産投資の本質は、賃料収入を得ることなので、将来的な価格上昇は見込むべきではない
- ② 確かに賃料収入を得ることが目的だとしても、インフレ等による賃料の上昇により、結果的に不動産価格の上昇をもたらす点が、より重要な要素である